

自宅外避難の心得

1. 非常持ち出し品を準備しておきましょう。

避難所の備蓄品には限りがあり、高齢者や身体の不自由な人や乳幼児などへ優先的に配付されますので、自らが十分な準備をすると安心です。非常持ち出し袋には、両手の空くリュックサックが便利です。重すぎないかどうか、いちど背負ってみましょう。



■ 非常持ち出し袋 (リュックサックなど) に入れておくもの

- 懐中電灯 携帯ラジオ 予備の電池 ロープ ろうそく 非常食
- マッチ・ライター ティッシュ ビニール袋 洗面用具 タオル 飲料水
- 缶きり・栓抜き 下着類・衣類 衣料品

■ 家族構成によって必要なもの

- 粉ミルク 紙おむつ 生理用品 高齢者や障がい者のための準備品 (常備薬や介護用品)

■ 避難時の必需品

- 雨具 (カッパ) 手袋 扶桑町水害対応ガイドブック 貴重品 (現金・保険証など)

■ あると便利なもの

- 毛布・寝袋 カセットコンロ 使い捨てカイロ 割りばし 床に敷くシート

2. 避難先・避難ルートを確認しておきましょう。

浸水に対して安全な避難先と避難ルートを、平時から家族や地域で確認しておきましょう。避難先は必ずしも役場が準備した避難所である必要はありません。親戚宅、知人宅、職場なども避難先の選択肢になり得ます。

3. 避難の方法を確認しておきましょう。

自家用車での避難は、緊急自動車の通行を妨げるとともに、交通渋滞を巻き起こします。どうしても自家用車での避難をしたい場合は、さらに早めの避難開始が重要です。

5. ご近所に声をかけましょう。

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。



4. 早めの避難を心がけましょう。

浸水してからの自宅外避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに身の危険を感じたら、避難情報が届くのを待たずに自主的に避難を開始してください。一刻を争う事態ですので、避難のタイミングを逃してはいけません。

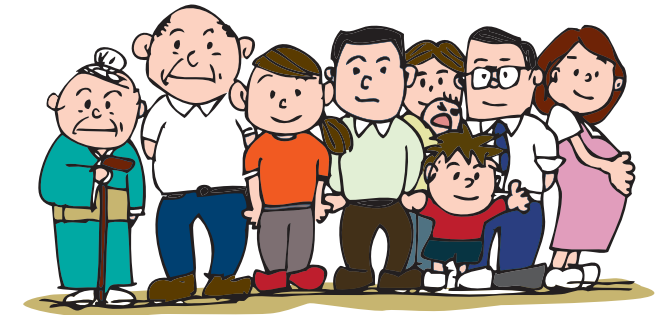


8. 地域で協力を

避難する場合には、周囲の人達に声をかけあいましょう。高齢者や身体の不自由な人など、避難に時間を要する人については、避難準備情報などを参考にして早めに避難させるようにしましょう。普段から地域で情報を交換し、いざというときには協力し合い、災害による犠牲を防ぎましょう。

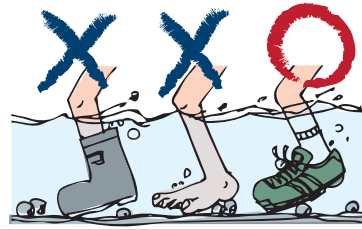
7. 役場指定の避難所での注意

水害時に開設される役場指定の避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することとなります。大声を出したり騒いだり他人が不快に感じるような言動は控えましょう。互いの気遣いが大切です。なお、ペットの苦手な人やアレルギーをお持ちの人なども滞在するほか、糞尿などの衛生面での問題も考えられることから、ペットを避難させる際には不特定多数の人々が長期滞在する場所は避けるように心がけましょう。

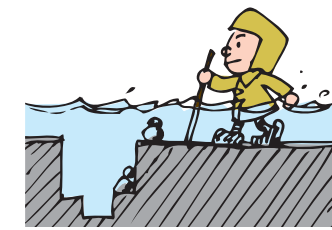


6. やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

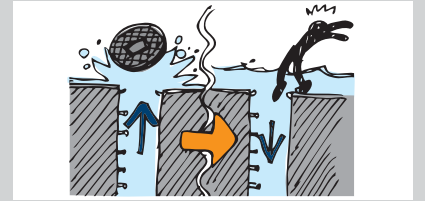
■ 長靴や裸足は危険です。運動靴をはきましょう。



■ 長い棒をつえ代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。



■ 深い浸水の中を歩くと、マンホールに気づかず吸い込まれてしまう場合があります。危険です。



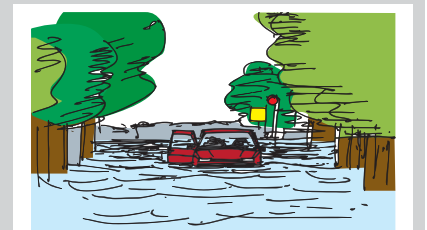
■ お年寄りや身体の不自由な人などは背負って避難しましょう。



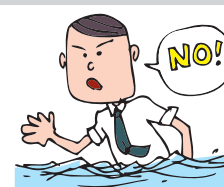
■ 幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。



■ はん濫による水は汚水が混ざっているので、むやみにさわらない。



■ 歩ける深さの目安は男性で70cm、女性で50cmくらい。



※浸水が浅くても流れが早い場合は危険です。

■ はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。



■ 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

